

がん化学療法科 ニュースレター

ほほえみ 第78号



ゴールデンウィークを迎え、旅行に出かけられる方も多いかと存じます。4月は肌寒い日が多かったように思いますが、ここにきてようやく暖かくなってきました。急激に気候が変わる時期でもあり、実は熱中症になりやすい時期でもありますので、水分を小まめに取るなど、心がけていただければと存じます。診療科が常勤医一人体制となり、一か月経過しましたが、一か月たつのが非常に長く感じています。普通は、年を取ると月日の流れるのが早いというので、有難いことなのかどうなのか理解に苦しむところです。

『中庸』

中国古典の『中庸』の方です。この言葉は、ギリシア哲学にもあって、アリストテレスのニコマコス倫理学にも取り上げられているのですが、内容は微妙に異なります。今回の話題は漢文の方になります。

個人的には、小さいころからこの古典があることは知っていましたが、それには機縁があって、私の名前の由来が、『中庸』から取ったものだからです。私の名前は先に字面があって、それを無理やり読んでいるので、凡そ、読めない名前となっています。東京には、「誠之小学校」という小学校があります。同じ出典から取ったものです。中庸の基本概念に、

「誠者天之道也、誠之者人之道也」 誠は天の道なり、これを誠にするは人の道なり

というものがあります。道なんていう概念が出てきますし難解なものです。従来、『中庸』は、孔子の孫にあたる子思が作ったものとされてきました。読んでみると、論語の少し後にしては、相当、概念的なので、年代的に違和感を感じます。現在では、荀子より後にできたのだろう(秦の統一後)、とされています。

「誠」というと、現代的にはこなれてきていて、普通の文字です。新撰組の旗印がこの文字ですし、逆に、そうなってくると毀誉褒貶もあると思います。この文字は、論語では重視されていないので、やはり、年代が下なのでしょう。

儒教の流れの中では、やや唐突に出現してくる「誠」ですが、明治書院の「大学 中庸」には、自己をいつわらずに自己の最善を他人につくす精神と解説されていました。ただ、これは自然発生的ではなく(対人関係の精神として考え出されたものではなく)、神に対する精神が転用されることで生まれたと考えられています。

古代では、現代のような横並びの人間観はなく、神が自己に対する代表的な他者であるというのは、先月、取りあげた「タルムード」と共通する気がします。愛が他者性から発生し、誠が、人間が神に向き合う畏怖の姿勢から生まれたとすると、東洋と西洋のどちらも、人間の基本的なあり方が共通しています。この、根底を辿ると神に出会うというのが、非常に興味深く感じています。



『人の心に贈り物を残していく』

先月、この本が発売されました。外来にも三冊置いてありますが、これは出版社さんからもらったものです。この本自体は、柳田邦男先生と樋野興夫先生の対談形式の本なのですが、たまたま、この本の後ろの方に、座談会の収録があり、その座談会に出席したので、原稿料替わりと言いますか、いただいたものです。

がん患者の幸福論をサブタイトルとした本で、内容の濃い対話が収録されています。個人的に、柳田先生にお会いしたのは(といっても名刺交換してご挨拶したくらいですが)、2012年10月で、もう5年経とうとしているのに気づき、今も変わらずお元気そうなので懐かしく感じました。しかし、その間、自分が進歩しないことと比較し、柳田先生のお話の格調の高さも更に増したように感じ、恐るべき先達だと感じました。待ち時間にでも、読んでみてください。



お花見に行ってきました

4月23日に、お花見に行ってきました。今年は花見には肌寒く7-8分咲きといったところでしたが、週末にしか出かけられないこともあり、日曜にいつてきました。盛岡城跡にいったのですが、多少の肌寒さは何のその、沢山の方がお花見にいらしていました。

毎年、見かける大道芸人の人もいて、今年も見かけられて良かったなとか、一年を確認する我が家の行事となっています。

屋台の辺りを歩いていくと、丁度、緑化運動の催しで、腐葉土を先着100名の方に配布しますということでした。土壌改良に使えるかなと思い、一袋いただいて帰りました。ちょっと、ラッキーでしたね。



MEMO

5月のがん化学療法科の予定

5月2日	診療応援(平出先生)
5月3日	憲法記念日 外来化学療法を行います
5月4日	みどりの日
5月5日	子供の日
5月9日	診療応援(工藤先生)
5月16日	診療応援(平出先生)
5月19日	新渡戸稲造記念 メディカル・カフェ予定
5月23日	診療応援(工藤先生)
5月30日	診療応援(平出先生)

